

もりびと 水の守り人マップ

水源の森から海まで
150kmの水の旅



びわ湖を守ることは 海を守ること

水源の森から、琵琶湖・淀川・海へと続く
「水の道」をめぐる、それぞれの場所で
水を守る「水の守り人」を訪ねて。

山から湧き出た最初の一滴は、やがて川となり琵琶湖に流れ
込みます。

大小約460本の河川が流れ込む琵琶湖も、流れ出す
自然河川は瀬田川たった1本です。瀬田川、宇治川、淀川と
名前を変えて流れ行く水は、近畿圏約1450万人の飲み水と
して利用され、大阪湾に注ぎます。

滋賀に暮らす私達
一人ひとりが森や川、
琵琶湖を守ることは、
海を守る事につな
がっています。





水の守り人マップを作ろう!



ワールドワーク「水の守り人マップを作ろう!」では、公募で集まった滋賀県内の小学4年〜6年生19名を「子ども記者」に任命し、保護者の皆さんらと共に、水源の森から海まで150kmの水の道をたどりました。

合計4日間で8ヶ所を訪れ、それぞれの場所で水を守る「守り人」に話を聞き、水を守る大切さを学んだ子ども記者たちが、取材や体験を通して学んだ事、感じた事は、最終日に壁新聞にまとめました。この冊子「水の守り人マップ」は、その壁新聞をもとに、制作しています。



海と日本 PROJECTとは

海と人と人をつなぐ。

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。

そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進するプロジェクトです。



日程プログラム

1 日目 平成29年9月24日(日)



2 日目 平成29年9月30日(土)



3 日目 平成29年10月7日(土)



4 日目 平成29年10月21日(土)





びわこ しぜん ぶんか けんきゅう
 琵琶湖の自然と文化を研究し、
 みず たいせつ つた ても びと
 水の大切さを伝える守り人。



びわこ びわこ ほんかく
 琵琶湖博物館
 せんもんがくげいいん
 専門学芸員
 おおつか たいすけ
 大塚 泰介さん



びわこ びわこ ほんかく
 琵琶湖博物館
 しゅにんがくげいいん
 主任学芸員
 かなお しげふみ
 金尾 滋史さん



がいらいしゅ ほんしよく
 外来種の繁殖や
 すいしつおせん
 水質汚染から
 びわこ まも りょうし
 琵琶湖を守る漁師。

やまだぎよぎょうきょうどうくみあい
 山田漁業協同組合
 くみあいちょう よこえ ひさよし
 組合長 横江 久吉さん

せいかつはいすい
 生活排水などによる汚染から
 びわこ かんきょう まも
 琵琶湖の環境を守る。



なんぶりゅういきげすいどうじむしょ
 南部流域下水道事務所
 しゅさ なかむら ただたか
 主査 中村 忠貴さん



おうみかんきょうほぜんざいだん
 淡海環境保全財団
 せんもんいん おおはし もとぎ
 専門員 大橋 基喜さん




せたがわ なが で みず
 瀬田川から流れ出る水の
 りょう かんり じょうりゅう かりゅう
 量を管理し、上流、下流を
 すいがい みずふそく まも
 水害や水不足から守る。

せたがわあらいぜき びわ
 瀬田川洗堰・アクア琵琶
 こくどうつうしゅうきんぎんちほうせいびきょく
 国土交通省近畿地方整備局
 びわこ かせんじむしょ ちようさか かつちよう
 琵琶湖河川事務所 調査課 課長
 きたがわ しんいち
 北川 真一さん

水の守り人マップ

水源の森から海まで
150kmの水の旅

琵琶湖の源流から琵琶湖、淀川をめぐる水の旅で出会った各地の「守り人」さんを一枚の地図にまとめました。それぞれの場所で守り人が水や自然を守っているから、私たちの暮らしが守られていることがわかってきました。



トチノキの森と水の生まれる所を守る。

高島市朽木
巨木と水源の郷をまもる会
会長 小松 明美さん

川端の文化を伝え、水に感謝する心や人を思いやる風土を守る。



高島市新旭
針江生水の郷委員会
会長 三宅 進さん



高島市新旭
針江生水の郷委員会
元会長 田中義孝さん



淀川の水門を管理し、暮らしの安心と、自然環境を守る。

国土交通省近畿地方整備局
淀川河川事務所
調査課長 森田 一彦さん

海から蒸発した水は雲になり、風に乗って雨や雪となって地上に降り注ぎ、全ての淡水の源になります。水はつながっているのです。



巨木と水源の郷をまもる会

滋賀県高島市朽木

豊かな森の奥に「水の生まれる所」を訪ねて。

高島市朽木の針畑地域は、琵琶湖の北西部を流れる安曇川上流の針畑川が流れ、安曇川の源流に近い所です。探索の拠点となる「源流の駅・山帰来」から、森の中へ入っていきます。うっそうとした広葉樹の森の中を、小川に沿って続く細い山道



を、守り人の小松さん達の案内で廻っていくこと約1時間。ようやく「水の生まれる所」に辿り着きました。

湿った地面から、よく見ないとわからない位、小さな水が湧き出しています。生まれたばかりの水は、しみるように湧き出る小さな小さなひとしずくでした。



水の生まれるところ

トチノキは他の木より多くの水を必要とするため、水場で生育します。その根は20m以上も張り巡り、水源の森を守っています。

海の水は、蒸発して水蒸気となり雲となり、そして雨となつて山々に降り注ぎます。山に降つた雨のうち、地下に沁み込んだ水は、地下を流れる伏流水となり、長い年月をかけて自然の中でろ過され水源の森から湧き出します。

トチノキの森は、山を守り、水を守る大切な働きをしてくれています。



トチノキの森の中を進む

守り人によって、自然の森が守り継がれていく。

巨木と水源の郷をまもる会の皆さんは、源流に残る森と暮らす人々のくらしの継続のお手伝いをしています。

朽木に残された貴重な巨木を守るため、森を見回って調査したり、新しい木の苗を育てたり、様々な保全活動を行っています。

豊かな森は、豊かな水にとつて無くてはならない存在です。山の恵みは湖や海の恵みに繋がっています。山を守ることは、湖や海を守ることになるのです。

大きなトチノキの森が、山を守り、水を守る。

「水の生まれる所」には、何本もの巨大なトチノキがそびえたつています。樹齢300年、幹の周囲が3mを超えるものもあります。

生まれた水は一滴一滴が集まって

川となり、琵琶湖に流れる。



担当メンバー



写真 松明美さん
んだ。トチの木は巨木にな
るまでに30年かかる他の木
よりも多くの水を必要とする
なので水場の近くにあり、
そのおは20m以上近くあり
トチノ木の実は昔は貴
重な食糧だった。

巨木になるまで直径1m周
りになる私には周囲の
巨木を、実際に感じるため
にみなる手ごっこで木の
周りの長さを感じてみた。
11人でまわって一周した。



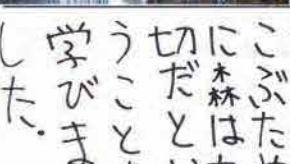
私もちは
巨木と水源
の郷をまもる

会の会長の小松
明美さんにお話
を聞いてきた。
一緒にトチの木
を登ぼりトチ
ノ木にうって学

巨木と水源の郷を まもる会

発行
海と日本プロジェクト in 滋賀県
水の守り人マップ子ども記者

作り方はもち
にかちをむい
たトチノ実を
つぶしつぶし
ものちもちに
入れませもち
の色が茶色に
なるまでまぜる



●トチモチはともしが
かだだがあんこをかける
としておいしうかた。
吉本龍侍
●木の味がした。
武井晴雄

●トチモチはともしが
たべると味はせずあ
んこをつけるとあまく
ておいしいトチモチでし
た。丸本 琴子

●トチモチはなにも
つけなくてもおいし
いけどあんこをつけ
けるとも、とおいし
かった。上村リみ

●トチモチはともしが
かだだがあんこをかける
としておいしうかた。
吉本龍侍
●木の味がした。
武井晴雄

水の生れるところ



トチノ木の近くか
ら水が生まれてい
まがた。い
あめがた。い
木林がスポンジが
わりにたがってきれいに
して川や
地下水を
通してゆく
りながれて
いきま
なのできれ
いな水を
いごには

木林をまもることが
ひつようです。
もりから木がなくな
ればスポンジ代わり
の土が木林から流れ
ます。
もりの木をきれいに
びわこにきいたない
水が流れます。
びわこにききれい
かな水をは
こぶため
に木林は大
切だとい
うことを
学びま
した。

丸本
琴子

山のぼりはすべ
りがすか、たけど
さいごにきれいな
水を見れてよか
たです。
あんなにすこの
水があ、まて川にな
るとしておどろき
ました。

この4日間に分かた
この4日間、山のぼりや
たぐさん歩りてつかた
が、このような事もして
分かって、いしげに思た
事があり、とてもおもしろ
かったです。えだんかなな
たべられないものもた
れてうれしかった。
吉本龍侍

海と日本プロジェクト
を終えての感想
この4日間、山のぼりや
たぐさん歩りてつかた
が、このような事もして
分かって、いしげに思た
事があり、とてもおもしろ
かったです。えだんかなな
たべられないものもた
れてうれしかった。
吉本龍侍

海が山にかんけいしている
とはしりませんでした。なので
山や海などを大セカにしようと思いま
した。
上村リみ

世界一の雨がたんけんした。
びあますがいしかな。
山の水がつかたかた。
水をたいせつにする。
武井晴雄



針江生水の郷委員会

滋賀県高島市新旭町針江

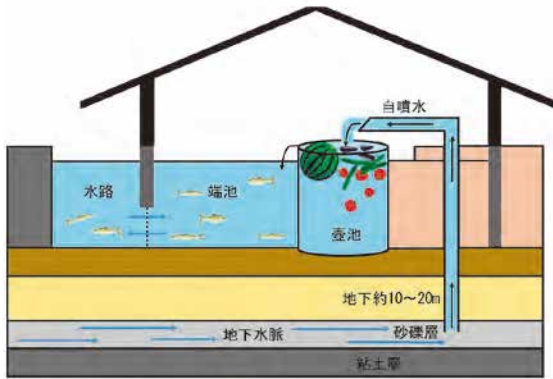
川端は、究極な「エコ」の生活

滋賀県高島市新旭町針江という小さな静かな集落の家々では、地中10〜20mに打ち込んだ鉄管を通して清らかな水が自噴しています。湧き水は「川のはたの台所」を意味する川端とよばれる仕組みに注がれ、単に飲水だけでなく、夏野菜などを冷やしたり、食器洗いなどあらゆる生活用水として利用されま



食器の食べ残しはコイがキレイにしてくれる

す。川端ではたくさんのお魚が飼われており、食器についた食べ残しをきれいにしてくれます。この仕組みから究極のエコシステムとも呼ばれてい



家の外にあるタイプの「外川端」

ます。針江地区では、170軒のうち110カ所に湧き水があり、90軒が川端を利用していています。

コンコンと湧き出る清らかな水

朽木の山々に降った雪や雨は地面に染み込み地下を流れる伏流水となり、何年もかけてろ過されます。この地域独特の地形の恵みもあり、極めて清らかな水となっています。針江では、各家庭から湧き出ることのきれいな水を「生水」と呼び、昔から大切に利用してきました。水温は年中12〜13℃、夏には冷たく、冬に



キレイで美味しい湧き水「生水(しょうず)」

はあたたかさを感じます。軟水で、コーヒーやお茶もとても美味しくいただくことができます。

地域や下流のことを常に思いやっています

各家の川端から流れ出る水は集落を巡る水路へとつながっています。が、汚れた水が流されることはありません。同じ集落に暮らす人の事を思いやり、汚れた水は流さないという気持ちを大切に守り継いでいます。この考え方は琵琶湖や川の上流に暮らす人が、下流の人たちを思いやる気持ちと変わりありません。滋賀県では針江地区以外にも、能登川地域のカワト、彦根の本庄地区のカワヤなど、地下水を大切に使う仕組みが各地に残っています。

生まれてくる清らかな水は、

感謝を込めて「生水」と呼ばれる。



担当メンバー

山田漁業協同組合

滋賀県草津市北山田町

漁船に乗り 琵琶湖の現状を体験

朽木の森で見た源流の一滴は琵琶湖に流れ込みます。その琵琶湖の現状を観察するために、草津市にある山田漁業協同組合を訪ね、漁師さん達とともに漁船に乗り琵琶湖へ出ました。湖上では、組合長の横江さんから琵琶湖の現状を解説していただき、昔は水が透き通っていた



沖に出て現在の琵琶湖を体感

て、今とは水の透明度が全く違うというところをお聞きしました。当日の琵琶湖も湖底までは見ることができませんでした。



湖上で透明度をチェック

今の漁師の仕事 はどうなっているの？

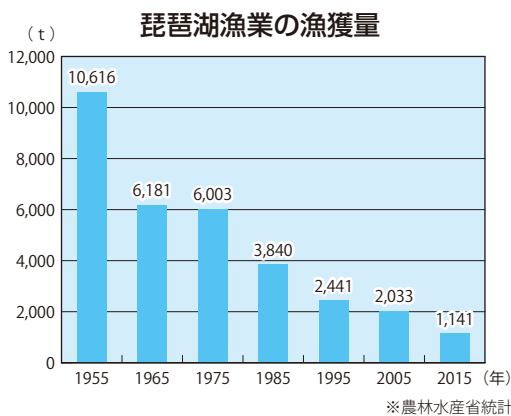
現在、山田漁業協同組合では、外来魚の駆除と大量発生した水草の除去が主な活動となっています。

琵琶湖の漁は、ブラックバスやブルーギルといった外来魚が生態系にあたる影響や、オオカナダモなどの外来の水草による琵琶湖の水質悪化により、漁獲量は60年前の10分の

一日でも早く、昔の琵琶湖に帰して
魚が戻ってくるようにしたい



採取したオオカナダモ



1まで減少し、在来魚の捕獲率は約10%程度になってしまいました。大量発生した水草は、水の流れを悪くしたり、湖底の酸素不足をまねいたり、底質をへドロ化するなど、漁業に携わる方だけでなく、皆さんの生活環境にも悪影響を与えています。

琵琶湖の未来に向けての活動

本来琵琶湖の南湖はセタシジミなどの貝類や、ホンモロコやニゴロブナなどの稚魚の産卵繁殖、生育の場所になっていました。山田漁業協同組合では、このような魚の住みやすい、かつての琵琶湖を取り戻そうとホンモロコ・ニゴロブナの稚魚を育てて放流する取り組みも行っています。

「漁師の仕事は、琵琶湖の魚を捕って食卓に届けること。一日でも早く、昔の琵琶湖に帰して、魚を捕れるようにしたい」と漁師さん達は願っています。



担当メンバー

湖南中部浄化センター

滋賀県草津市矢橋町

下水処理のしくみを学ぶ

① 私たちが水洗トイレで使った
り、洗濯や風呂で使った汚れた水
は、平均一人一日で200リットル
にもなります。そんな下水がどのよ
うにしてきれいになるのかを学びま
した。家庭から湖南中部浄化セン
ターに流入してきた下水は、①スク
リーンポンプ室↓②最初沈殿池↓
③生物反応槽↓④最終沈殿池↓⑤



湖南中部処理区の下水管は最大 4.0m

急速砂ろ過池といった「水処理」シ
ステムできれいにになり、琵琶湖に
放流されます。湖南中部浄化セン
ターでは約24時間で下水の浄化を
行っています。

琵琶湖をきれいにしたい

滋賀県をはじめ近畿の生活と産業
を支える水資源である琵琶湖を健全
な姿で次の世代に引き継いでいくこ
とが、湖南中部浄化センターの使命
です。

滋賀県は、水質保全と生活環境の
改善を図るため、昭和48年から琵



放流槽で水の透明度を確認

最先端の技術と自然の力が水をきれいに

水はくりかえし使われる

守り人さんと一緒にティッシュ
ペーパーとトイレトペーパーを水



大橋さんから、下水のその後の説明

琵琶湖流域下水道の整備を進めてき
ました。また、富栄養化を防止する
ため、全国に先駆け窒素やリンの除
去を目的とする「高度処理」を行い、
環境の負担を軽減しています。その
下水処理施設の一つとして、湖南中
部浄化センターは昭和57年4月に供
用開始しています。

その他にも下水道の普及状況や汚
水処理施設の整備状況も全国的にみ
て7位・3位と上位にランキングさ
れています。

に溶かす実験を行いました。トイ
レットペーパーは水に溶け、ティッ
シュペーパーはいくらかき混ぜて
も溶けることはありませんでした。
私たちの生活の中でもトイレには
ティッシュペーパーを流さない。ま
た下水管の詰まる原因となる油や野
菜くずなども同じように流してはい
けないと改めて感じました。自分達
が使った水は、ゴミを沈殿・除去し
て砂の層でろ過され約20種のプラ
ンクトンを始めとした微生物の力をか
りて、くりかえし使用されるのです。



毎日の生活でできることも



担当メンバー

湖南中部浄化センター

発行
海と日本プロジェクト in 滋賀県
水の守り人マップ子ども記者

守り人①
湖南中部浄化
センター主査

中村 中心
中虫目



守り人②
淡海環境保全財団
専門員

大橋 其喜
専門員

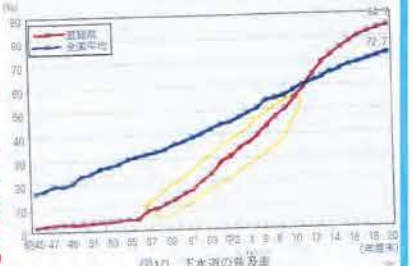


守り人さんありがとうございます😊

下水処理のしくみ

始めにスクリーンポンプ室で大きなゴミをとりぬぎポンプでくみ上げます。最初沈殿池で、小さなゴミや泥などを沈めます。次の生物反応槽で活性汚泥に汚れを食ってもらいいます。また窒素素やりんもりのぬぎます。次の最終沈殿池で汚れを食べて重くなった活性汚泥をしずめて汚泥処理場へ送ります。最終の急速ろ過池で細かいゴミをとりぬぎきれいにします。

下水道の普及



よごれた水は処理する下水道はびわ湖の水では整備ができていません。その背景には国のプロジェクトがあり都市化が進みました。その結果下水道普及率は84.7%で全国1位になりました。しかし下水道に何でも流していいわけではありません。家庭で水を汚さないようにするため何ができるかを考えてみましょう。家庭だけでなく工場も水をきれいに流します。

自分たちでできること

工夫①
トイレトイレットペーパーとティッシュペーパーが水の上にとけるかを実験しました。結果はトイレットペーパーはすぐにとけました。一方ティッシュペーパーはなかなかとけません。なので絶対トイレットペーパーにティッシュは流してはいけません。

実験したよ!!



どちがとけやれいな?

工夫②
天ぷら油はうすめるのに1.3万2000倍の水が必要です。そのため油は固めて捨てたり、布に吸集して捨てて下さい。

まとめ

汚れは生物によりきれいな水になるので限界があります。だからできるだけ無害な排水はやめて動いてくれている微生物の事を考えるようにして下さい。処理場はたかん水がきつくなってきたからできなくなったか、水がきつたないし処理場の人も、ぬせいがつが変だと思ったりから油やうけなどはあまり流してはいけないと思いました。



井手 海 石川 璃一

瀬田川洗堰

国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所

滋賀県大津市黒津

24時間体制で、
瀬田川の水量を管理！

琵琶湖に流れ込む河川は460本もあるのに対して、流れ出る自然河川は、唯一瀬田川だけです。



琵琶湖河川事務所では、瀬田川と県内で最も大きな河川の野洲川で、洪水から私たちの生命や財産を守る堤防や堰などの施設を点検・パトロールしたり、水のきれいさや量を調べたりして、防災対策や環境保全対策などを行っています。特に瀬田川は、大雨や渇水の時でも上流も下流も困らないよう瀬田川洗堰を24時間体制で総合的に水量をコントロールして氾濫を防いだり、飲水を確保したりしています。

細かな調節調整ができる現在の瀬田川洗堰

現在の瀬田川洗堰は、昭和36年3月に完成した本堰と、琵琶湖総



堰操作室

上流の人にも下流の人にも重要な役割を担っている瀬田川洗堰。

合開発事業の一環で平成4年3月に完成したバイパス水路からなっています。古い方の旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）は、明治38年に完成したもので、大きな角材を人力で上げ下ろしして水門の開閉をしたため、水門全部を開けるのに1日、全部閉めるのには2日もかかりました。一方、新しい瀬田川洗堰では、水門全部を開けるのも全部閉めるのも30分しかかかりません。しかも、本堰は2段式ゲート、バイパス水路は3段式ゲートなので、より細かな調節ができるようになりました。



間近で見た放流は大迫力！

アクア琵琶でクイズや降雨体験にも挑戦！

「水のめぐみ館 アクア琵琶」は、琵琶湖の治水、利水、環境保全に

ついて、わかりやすく勉強できる施設です。映像や展示で琵琶湖の歴史や、昔あった洪水による被害や、洪水をなくすための取り組みを勉強しました。また、琵琶湖にまつわるクイズに挑戦したり、世界最大の豪雨（1時間600ミリ）を体験して、大雨の時の水の怖さを実感しました。



アクア琵琶でクイズに挑戦！



担当メンバー

瀬田川洗堰



瀬田川洗堰とは?

琵琶湖や京都・大阪
などで洪水や水不足が
起きないように瀬田川
の流量を調節する施
設です。現在の瀬田川洗堰は
1961年昭和36年に完成し
ました。

1990年明治38年に完成の
南郷洗堰は新洗堰の建設に
伴い撤去されましたが一部
は今も残っています。レン
ガづくりのレトロな建物は土
木学会推奨の土木遺産に選
ばれました。

3つの役割

- ① 大雨で琵琶湖の水位が高い時
には、たくさん水を流す。
- ② 雨不足で水の量が少なくなると
必要な量の水だけ流す。
- ③ 上流と下流で洪水が起るまじ
ように、水位調節をする。



南郷洗堰
(旧洗堰)

瀬田川
洗堰

発行
海と日本プロジェクト in 滋賀県
水の守り人マップ子ども記者



堰の操作を
するところ

河川事務所



国土交通省近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所 調査課
課長 北川 真一さん



琵琶湖にそそぐ川は、
約46の本

琵琶湖から流れる川は、
瀬田川一本だけ

琵琶湖の面積は、
約670km²(約2億坪)

貯水量は、
27兆5千億リットル

日本人の10人に1人が
琵琶湖の水を使っている

11月29日10月7日は、瀬田川洗堰
から、
1秒に1トンの水を流していた

感想
洗堰
瀬田川を動かす人が
次に水を使う人への思いやりが
伝わってきました。

瀬田川洗堰を作っている人はとて
もすごいなと思いました。

瀬田川洗堰1秒に1トンも水を
動かしているのがすごいと思いま
した。

次頁料は、国土交通省近畿地方
整備局 琵琶湖河川事務所
より



アアア琵琶で
雨体験したよ。

石井 瑛一
木本 春樹
星野 友花

淀川大堰

国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所
 大阪府大阪市都島区毛馬町



水の流れを追いかけて、大阪湾から10kmの淀川大堰に到着！

琵琶湖から流れ出た水は、瀬田川から宇治川、淀川と名前を変えて大阪湾に流れており、大阪湾まであと10kmの場所に淀川大堰があります。

京阪神地区で利用される水は、琵琶湖や木津川・桂川から流れてきて淀川沿いの浄水場から取水されています。そのため、淀川の水位を調節し、また、取水する水に海水が混ざらないように区別する必要があります。



海水と淡水が完全に区別される淀川大堰

150kmにおよぶ

長い水の旅もいよいよ終着点

流す必要があります。

このように、淀川大堰は、防災と水利利用の目的をもつとても重要な施設です。

魚の通り道「魚道」

人のことも自然のことも考えて

淀川大堰には、淀川を行き来する魚が通るための人工的な水路「魚道」が設けられています。ウナギやアユなど、川と海を行き来している魚はたくさんいます。



いよいよ海に到着

調査されています。

淀川大堰は、人の暮らしだけでなく、魚の生態や自然環境のことも広く考えて作られています。

いよいよ海に到着！

山で見た最初の一滴が

つながっている！

いよいよ海、大阪湾にたどり着きました。海辺の天保山にある大観覧車に乗って、空高くから広い海を眺めました。

朽木の山の中で湧き出ていた最初の一滴が、150kmの水の旅を巡って大きな海につながっていることを実感しました。



担当メンバー

わたしの 私たちの 水を考える



しがけんりつびわこはくぶつかん
滋賀県立琵琶湖博物館

せんもんがくけいん
専門学芸員

おおつかたいすけ
大塚 泰介さん

淡水は海水から

私たちが用いる水道水のもとになるのは、川や湖、浅い地下などからくみ上げた、ほとんど塩分をふくまない淡水です。しかし淡水は、いずれ海へと流れ出し、海水とまぎってしまいます。それなのに、どうして淡水はなくなるならないのでしょうか？

海から蒸発した水蒸気は、塩分をほとんど含みません。その水蒸気が雲になり、陸の上へと動いていつて雨や雪をふらせます。この雨や雪が、全ての淡水のみなものになるのです。海へと流れ出したのと同様に、雨や雪として陸にもどってくるから、バランスがとれているのですね。

水はみんなのもの

私たちが使える水は、地球上の水のごく一部にすぎません。地球上の水の97.5%を占める海水は、飲み水にも用水にも使えません。残る2.5%の淡水も、ほとんどが氷だったり、地下の深いところにあつたりして、私たちが使える淡水は0.01%

(1万分の1)ほどしかないとも言われています。だから世界では今も、水をめぐる争いがたえません。私たちが住む滋賀県でも、かつては激しい水争いが起こっていたそうです。

水はみんなのものです。私たち一人ひとりに、水を使う権利があります。しかし、水をひとりじめして、売ったり、他の人が使えないようにしたりしてはいけません。他の人たちが水を使う権利をうばうことになるからです。

森を守って水を守る

森を守ることが、水を守ることにつながります。森にふつた雨は、多くが地下へしみこみます。そして、数日から時には何十年もたつてから、川にわき出します。その間に雨水はろ過され、またミネラルをとけこませて、きれいでおいしい水へと変化するので。

しかし、もし森の木がなくなつたら、雨は山の土をけずつて川に流し込み、川を汚すようになります。また、雨がふつた時だけ洪水になる一方で、ふだんの川の水は減つてしまい、私たちは安定して水を使うことができなくなつてしまいます。

微生物のことも考えて

油や合成洗剤をなるべく下水に流さないようにしましょう。排水に含まれる汚れをとりぞいでくれるのは、川や湖にすむ微生物です。しかし今では昔に比べて汚れの量が多くなり、その内容もさまざまになつていきます。そのため、川や湖にすむ微生物の力だけでは、水を十分にきれいにすることはできません。だから、下水処理が必要になります。

しかし下水処理場でも、水をきれいにしてくれる

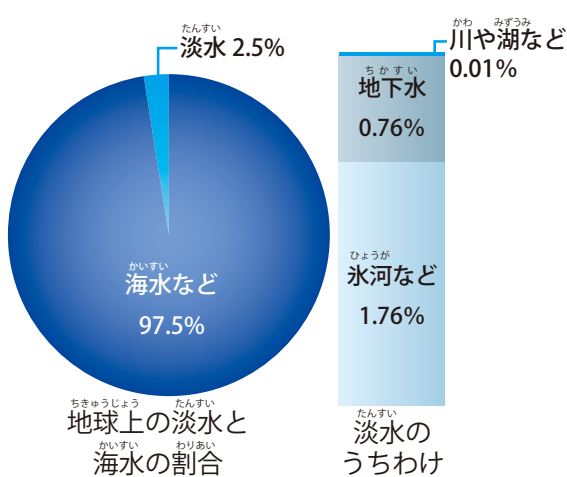
のは、やはり微生物です。だから、油や合成洗剤など、微生物がきれいにしにくい汚れは、なるべく流さない方がよいのです。

だれでも水の守り人

下流にすむ人たちは、上流の人たちが出した排水をきれいにして使っています。だから、みんなが等しくきれいな水を使えるようにするために、上流の人たちは、なるべくきれいな水を下流に流すようにしなければなりません。

そのために私たちができることがあります。油や合成洗剤を流さないこと、森や川や湖の環境を守ること。そして、もつとも基本的で大切なことは、身近な水環境に関心を持ち、家族や友だちと話し合うことです。

水を大切に使いながら、下流の人たちに思いをはせ、なるべくきれいな水を引きついでいく。そのために考え、行動する人は、だれでも水の守り人なのです。



国土交通省
「平成28年版 日本の水資源の現況」に
もとづいて作成

みんなが作った 新聞を読み終えて



滋賀県立琵琶湖博物館
主任学芸員
金尾 滋史 さん

それぞれの場所で何を感じたか

三日に分けて琵琶湖の源流から琵琶湖、淀川をめぐる活動をおこない、最後に琵琶湖博物館でまとめをすることで、6枚の新聞が出来上がりました。すべての回のまとめに、そして新聞を作るにあたって琵琶湖博物館の展示や私達の研究なども参考になったのであれば、私達も嬉しく思います。

ひとつひとつの新聞には、各地の守り人の方から聞いた話、その場所の価値、そしてどういった問題が起きているのか、そこから皆さんが何を感じたのか、ということがまとめられていました。完成したそれぞれの新聞を読んでいると、その場所になくても、どんな人と会い、何を学び、何を思ったのかがよく伝わってきました。

源流の水は海につながっている

その中で、大事なことが2つあると感じました。一つ目は、みんなが作った新聞をつなげていくと、まさに琵琶湖・淀川水系の源流から下流域、そし

て海までのつながりができることです。

今まで滋賀県内でさまざまな水に関する取り組みが行われてきましたが、下流や海までを取り扱った活動はあまりありませんでした。滋賀県にすむ私達にとつて、特に海はあまり縁がないかもしれませんが、実は水を通じてきちんと海までつながっていることがわかったのではないのでしょうか。

みんな関わりあって生きていく

普通であれば、水は高いところから低いところへ、上流から下流へと流れていきます。ところが江戸時代には海から琵琶湖にまでウナギがやってきたとも言われています（現在琵琶湖にいるウナギは放流しているものです）。実は、琵琶湖と海をつないでいるものは、決して二つの方向だけではなく、時には上流から下流へ、時には下流から上流へとさまざまなつながりがあります。そして、そこに多くの人が関わってきているということを、この活動を通じて知ることができたのではないかと思います。

お互いに認め合うことが大事

そしてもうひとつは、この新聞を作っていくなかで、いろいろな課題やこれから私達が考えていかなくてはいけないことが出てきたと思います。水の使い方、上流と下流の関係、生き物や自然のことなど・・・それを解決するための答えはひとつではありません。だからこそ、時にはお互いで言っていることが食い違うこともあります。みんなが作った新聞でもひよつとしたら、同じ問題で、違う考えが書かれているかもしれない。でも、そんなときは「それぞれの立場によってモノの見方や考え方が違う」という視点を大事にしてください。お互い

がそれを認め合う時、あたらしい考えや解決の道ができてくると思うのです。

これからがスタート

みなさんが4日間体験した活動、そしてこの新聞は、作って終わりではなく、これからがスタートです。すでにみなさんも「水の守り人」の一員ですから、この経験をぜひ普段の生活やいろいろな場で活かして、琵琶湖・淀川をもっと好きになっ



琵琶湖を守る。海を守る。

僕たち、私たちも「守り人」です。



海と日本プロジェクト in 滋賀県
～水の守り人マップを作ろう！～

参加メンバー

子ども記者

1 班

吉本 瀧侍
丸本 琴子
上村 莉美
武藤 煌飛
水沼 茜里子

2 班

星野 友花
森 春樹
橋口 清花
山川 凜
石井 瑛一

3 班

井手口 海
井手口由奈
谷口 佳世
石川 璃一

4 班

宮川 璃桜
前川 倭汰
奥村 碧
吉原 凧翔
三浦 彰仁

大学生サポートリーダー

栗津 新
山本 さや香
栗津 虹
森口 和真
蒲生 彩夏

(滋賀大学 教育学部
初等教育コース
環境教育専攻)

推進リーダー

小西 あゆ香
吉田 恵子
藤田 有紀
(びわ湖放送)

コーディネーター

白髭 健次
(びわ湖放送解説委員)





- 主 催 海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会
- 事業運営 びわ湖放送株式会社
- 後 援 滋賀県 滋賀県教育委員会

平成29年12月発行